

立冬を過ぎ、あっという間に、今年も残り一月半。
町民の皆様、お元気にお過ごしのことと思います。お陰様で、学校・幼稚園とも、夏の暑さを無事、難なく乗り越え、順調に歩を進めております。

先日、10月14日（火）開成町民センター大会議室にて、文部科学省初等中等教育局参事官付運営支援推進係長（併）運営支援企画係長 風岡治氏、文部科学省コミュニティ・スクール推進員、三鷹中央学園コミュニティ・スクール委員会副会長 四柳千夏子氏をお招きして、平成26年度開成町立学校運営協議会合同会議を開きました。この会議は、一昨年度から始まりました。各学校の運営協議会の情報交換、委員の研修、興味をお持ちの方々への啓発活動として行っております。



なぜ、「コミュニティ・スクール」なの？

約9%、数にすれば1805校。全国のコミュニティ・スクールの指定率（H26.4現在 小中学校のみ）、指定校数です。

「こんなに少ないの！ それなのに、なぜ、開成町はコミュニティ・スクールにしたの？ PTA や学校評議員会だって、しっかりしていたのに。」

文部科学省風岡係長の講演を参考に、この疑問について考えてみたいと思います。

簡単に言うと、コミュニティ・スクールに指定した（町の教育委員会が指定します）理由の第1番は、子どもたちを開成町という“地域総がかり”で教え育み、豊かな心を持った大人、たくましく生き抜く力を持った大人、これからも地域を大事に育てていこうとする大人になって欲しいと強く意識したことです。

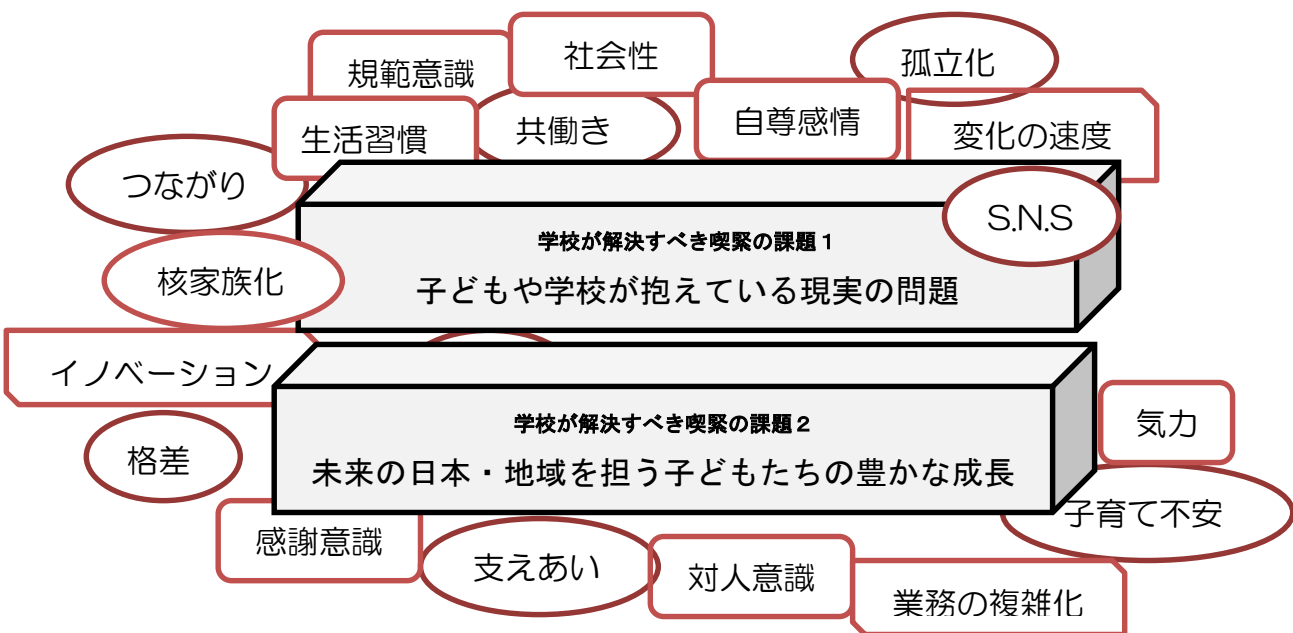


図1 社会の波の中にある学校の為すべき課題

開成町に限らず、どこの街でも、ここに挙げたようなことを問題意識として持っています。

その多くの課題意識の海の中で、学校は解決・発展を目指すべき課題に日々、地道に取り組んでいました。しかし、これだけ多様で複雑に絡み合った問題の中で、学校だけが子どもたちと向かい合い、子どもたち一人一人に毎年毎年、成果を積み上げていくことはたやすいことではありません。そうこうしているうちに、子どもたちは学校を卒業してしまいます。

“地域総がかり”で、いろいろな視点から子どもたちを見、いろいろな視点から考えを出し合い、みんなで協調して取り組み、互いに支えあいながら子どもたちを育てていくことが重要です。

では、「地域総がかりで行う教育」とは、どういうことでしょうか。どんな素晴らしいことが起きるのでしょうか。

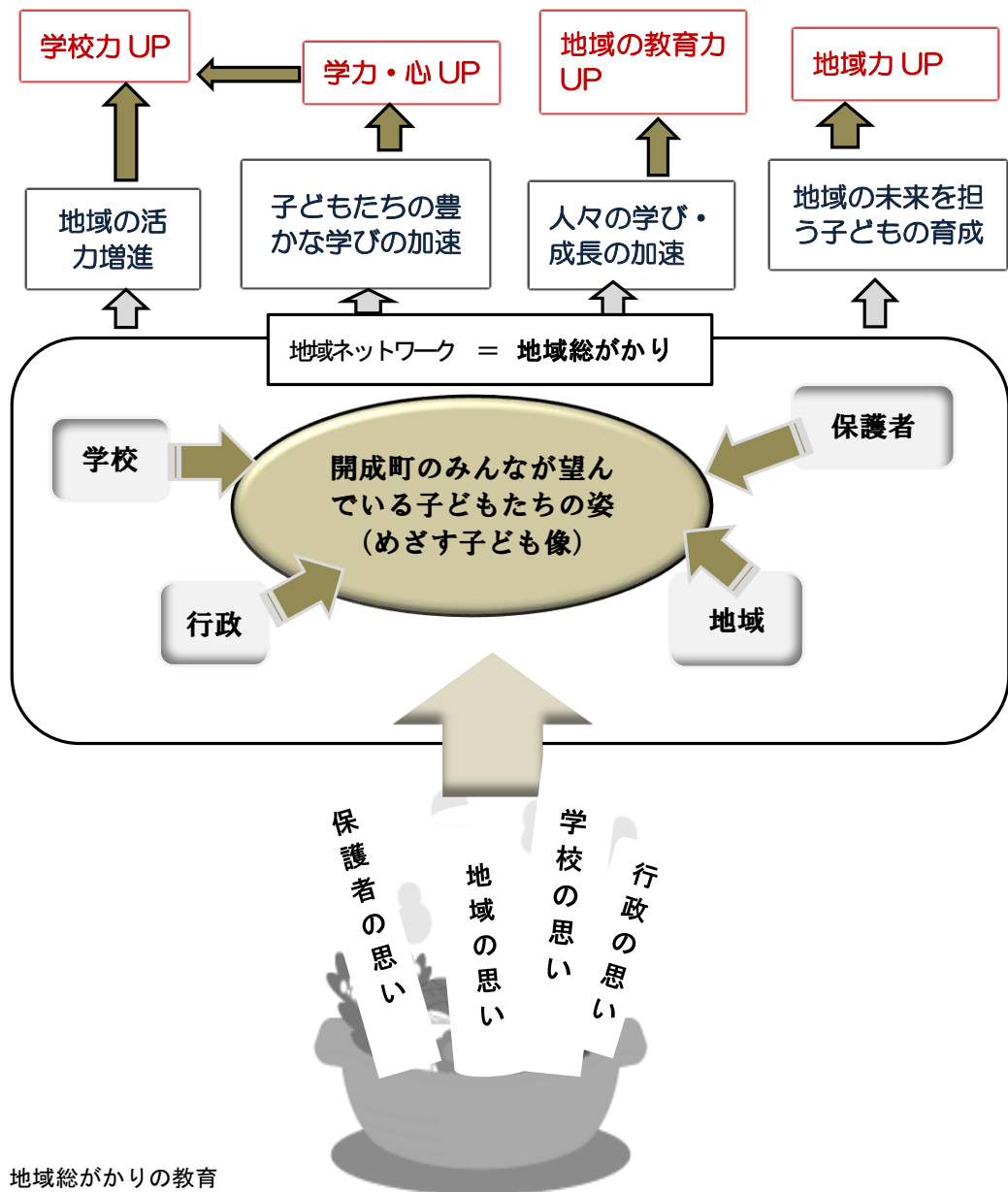


図2 地域総がかりの教育

人が結びついて何かを成し遂げようとするには、「何をどうしたい」という目標の共有が第一に重要です。教育場面での目標の共有とは、「子どもたちが、〇〇になって欲しい」という“子ども像”を共有することです。ただ、子どもへの思いは、大筋では同じようであっても、細かなところでは、保護者と地域の方々とも違うでしょう。学校、保護者、地域、行政の思い

は、少しずつ違って当然です。全ての人の思いが違って当たり前なのです。

以前の学校教育では、学校が主体性を発揮して、目指す“子ども像”を設定し、保護者や地域に説明し、理解していただけるよう努力し（子ども像の共有）、協力してともに取り組んでもらう、というスタイルでした。コミュニティ・スクールによる学校教育は、地域、保護者、学校、行政が協働して進めていきます。

目指す目標に向けて協働していくには、互いに同じ目標をもって、できれば同じ考え方に立っていることが大切です。そのためには、互いに腹を割って話し合いをし、互いの違いを知って、歩み寄って、考えの着地点をみんなで探すことが重要です。まさに、学校・保護者・地域・行政の人々のネットワークで行われる教育が“地域総がかりで行う教育”と言えると考えられます。

そうは言っても、この4者が全員で意見を交わすというのは、現実的には無理です。そこで、この4者を代表する人々の集まりで学校の運営に関する協議を行う事としました。この協議体が『学校運営協議会』です。そしてこの協議で学校の運営を考えることとした学校をコミュニティ・スクールと言います。

学校運営協議会の仕事（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5：学校運営協議会の権限）
1 校長の作成した学校運営の基本的な方針を承認する。
2 学校の運営に関する事項について、校長や教育委員会に意見を述べることができる。
権限外だがやってくださっている仕事 学校支援活動 地域の人材の発掘 学校評価 等

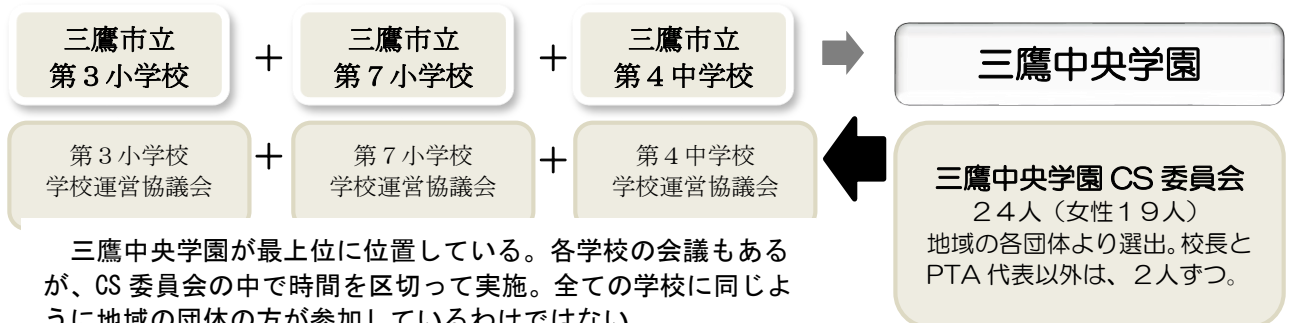
コミュニティ・スクール実施のメリット

- ① 地域住民などのニーズを的確に学校運営へ反映させられる
- ② 教育に関する学校の学校・家庭・地域の考えや活動が一体化されやすくなる
- ③ 可視化の進展によって学校の信頼性を高めることができる
- ④ 地域の活力が高まる

三鷹中央学園コミュニティ・スクール委員会(CS委員会)

副会長の四柳千夏子さんが、具体的なことをいろいろお話して下さいました。

東京都三鷹市に、“三鷹中央学園”という学校があるわけではありません。6年前、子どもたちの学びの連続性・継続性を保障し、関わる人すべてが子どもたちの15歳の姿を共有して当事者責任意識を持つということから、小中一貫教育を始めました。“三鷹中央学園”という学園は、公立小学校2校と公立中学校1校の集合体（中学校区）です。この小中一貫教育を推進していくにあたって、コミュニティ・スクール委員会が組織されたそうです。



三鷹中央学園が最上位に位置している。各学校の会議もあるが、CS委員会の中で時間を区切って実施。全ての学校に同じように地域の団体の方が参加しているわけではない。

CS委員会の役割・・・ 協議機関であること 学校支援組織であること
保護者・地域の声を学校運営に反映させること、そして教育目標を実現させることをめざして活動。

CS 委員会の3つの使命

- ① 子ども・学校の課題や教育目標を学校・地域・家庭が共有するように話し合いの推進役、まとめ役を担う。
- ② 各地域団体から代表として参加していることから、学校が地域づくりの拠点になるよう人と人をつなぐ役割を果たす。
- ③ 学校にとって、辛口の友人になる。真のパートナーとなる。

CS 委員会は、学校支援組織でもあるとはいえ、協議機関としての役割が強いものです。また、時間的な問題、得手不得手の問題など、人はいろいろな事情を持っているため、誰でもがCS 委員会に関わることができるわけではありません。そこで、協議でなく、実行を目的とした組織として、“みたかスクール・コミュニティ・サポートネット”が組織されています。現在18名、保護者OBや現役のCS委員も入っているそうです。掛け声倒れにならないための仕組みと言えそうです。

三鷹中央学園 CS 委員会の組織	
学園評価部	教務主任と協働して、学校評価の実施、処理。目指す学園像の4者の取組（パワーアクションプラン）の策定及びそのための話し合い（熟議）の進め役。
学園支援部	学習ボランティアの管理・運用。補習学習の推進。漢検などの実施。
地域コーディネーター部	地域の人である強みを生かして、地域人材を学校へつなぐコーディネート。学校を核とした地域、人のつながりをコーディネート。

“開成町各小・中学校学校運営協議会”も、三鷹中央学園CS 委員会と同様に組織構成をしています。次に示す通りです。今後は、これらの組織を活用しながら、町民の皆さまとともに、手を取り合って、開成町らしい子育てを模索しながら前進していきたいと考えております。皆様方のご理解、ご支援をお願いいたします。



開成町学校運営協議会合同会議

コミュニティ・スクール推進連絡委員会

開成小学校学校運営協議会	開成南小学校学校運営協議会	文命中学校学校運営協議会
☆学び支援部会 授業講師や補助者のコーディネート 校内見回り活動 ☆環境向上部会 環境美化のコーディネート栽培活動支援 体育芸術的環境整備 文化活動の推進 ☆安心安全部会 防災防犯交通問題 保健環境推進 外部機関連携 ☆子育て支援部会 幼小中連携 啓発活動 学外問題の処理・未然防止	☆学校支援部 人材バンク管理 外部人材との連絡調整 ☆健康安全部 登下校・地域行事での安全確保 あいさつ運動 ☆学校評価部 学校関係者評価 外部アンケート実施集計 ☆広報部 会の活動や教育活動支援に関する広報	☆PTA ☆おやじの会 ☆地域交流（スクールボランティア） ☆幼小中高連携 ☆情報発信 ☆学校評価